



**同窓会会報 第73号**

発行／日本社会事業大学同窓会  
〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30  
TEL 042-496-3053  
振替口座 00100-9-42448  
HP : <http://jcsw-alumni.com/>

編集・印刷／ 同窓会事務局  
〒121-0831  
足立区舎人3-11-26 E.P.S  
03-5839-3456代

市民公開セミナー & 北海道同窓会秋季セミナー  
「地域社会福祉シンポジウム」  
10月5日(土)小樽経済センター



第2回松窓寮同窓会 10月13日(日) 大学生協食堂



秋季セミナーの第2日目は小樽散策ツアー



<http://jcsw-alumni.com/> 



市民公開セミナー  
12月14日(土)郡山ビューホテル  
テーマ:東日本大震災の「今」～これからの生き方と支援～



学部24期(80年度生)

11月23日(土)表参道ワイン食道 D E N

日本社会事業大学の児童劇団{ピッポ}による公演  
『夢の中』・喜多方市塩川体育館(8月19日)

2013年度夏公演を福島県内4カ所で実施

同窓会神戸福島県支部長はじめ多くの皆様にご協力いただいた。

## 第44回社大祭

《テーマ》 Happiness is hear～幸せは社大に～  
《日程》 2013年11月2日(土) 3日(日)

スナップ集



岩手県大槌町から「鹿子踊」チーム来演



## 同窓生通信 1

二〇一一年三月に日本社会事業大学を卒業して二年が経ちました。卒業後、障害者支援施設滝乃川学園に勤めて三年目となります。

私は高校を卒業後、現在の職業とは関係のない生活を送っていました。そんな私がこの世界に興味を持ったのが、当時養護学校と呼ばれていた特別支援学校でのボランティア活動です。学校では自分が、当時養護学校と呼ばれていた特別支援学校で、より感受性・表現力豊かな方が楽ししそうに体育館で球技をされていました。その方に魅かれ福祉の勉強を始めました。

日本社会事業大学に在学中は佐藤久夫先生のゼミに所属をさせていただき、ちょうど必要な配慮についてご



**齐藤 智裕さん**  
(学部 51期生)

指導いただきました。また、地域型演習授業では添田正揮先生、清瀬市役所、清瀬市社会福祉協議会の方々のご指導・ご協力の下、授業の中で住民座談会を開催させていただきました。講義で学んだことを実践し、生の声を実感できる充実した学生生活でした。

現在職場では地域支援部に配属されています。移動支援や居宅介護サービス等地域で暮らす方がいをお持ちの方にサービスを提供する部署です。集団音楽活動やキャンプ、バーべキューも開催しています。また、東京都が普及促進するヘルプカードの国立市版の作成にも携わらせていただけたりで、様々な仕事を与えて頂いています。

## 【プロフィール】

- 神奈川県出身
- 趣味はボウリングと釣り
- 2009年4月日本社会事業大学社会福祉援助学科編入
- 2011年3月日本社会事業大学卒業
- 同年4月社会福祉法人滝乃川学園 入職 地域支援部 配属

日本社会事業大学のある清瀬市に就職してからもうすぐ六年経とうとしています。就職してからも実習指導者やゲストスピーカーとして大学に呼んでいただけ、卒業後も大学を近くに感じることがで

日本社会事業大学の大学時代は地域福祉を専攻し、大橋先生に学びます。大学時代は地域福祉は大変お世話になります。文献からの知識を得だけでなくフィールドワークの重要性も教えていただき、私が関わった秋田県藤里町の方々とは今でも繋がることができます。最近ではフットワークの軽さを見込んでもらつたのか、藤里町に養ったフットワークの軽さを活かし、医療機関や介護事務所、親族の方と迅速に連携し、うまくいったことも多く、大学で学んだ知識がひとつ身につけてきたと実感することができました。

経験も知識も少ないので共有はとても勉強になり、やりがいや楽しさを感じています。それはヘルプカード作成では、関係者や当事者の方の意見を共有させていただき一つの物を作れる楽しさ。直接支援では、ご利用者との楽しさや喜びの共有。

また、学齢期の方の成長を親御様と共に喜びを共有させていただけます。私は出会いや経験が少しでもご利用者、ご利用者ご家族のより豊かな生活につながればと思いながら今後も日々自己研鑽に努めます。

日本社会事業大学の配属されました。特別障害者手当や特別児童扶養手当などの支給や自立支援医療について担当し、知識を蓄えたのち、二年目からは生涯福祉課で生活保護の担当している方々の自立を支える仕事をします。清瀬市は医療の街ということもあります。高齢化率、生活保護率ともに多摩地区で一番となつており、日々現場に出でて貴重な経験をしました。大学時代に養ったフットワークの軽さを活かし、医療機関や介護事務所、親族の方と迅速に連携し、うまくいったことも多く、大学で学んだ知識がひとつ身につけてきたと実感することができました。

日本社会事業大学の一年目は障害福祉課に、現在は企画部企画課に配属され、組織管理や行政改革に取り組んでおり、今までと違う視点で清瀬市の福祉を考えるようになります。現場を離れたことで「相談員やワーカーだけが福祉の仕事ではない」と気づけたことを実習生にぜひ伝えたいと思います。

## 同窓生通信 2



**山田 周太郎さん**  
(学部 49期生)

日本社会事業大学の大学時代は地域福祉を専攻し、大橋先生に学びます。大学時代は地域福祉は大変お世話になります。文献からの知識を得だけでなくフィールドワークの重要性も教えていただき、私が関わった秋田県藤里町の方々とは今でも繋がることができます。最近ではフットワークの軽さを見込んでもらつたのか、藤里町に養ったフットワークの軽さを活かし、医療機関や介護事務所、親族の方と迅速に連携し、うまくいったことも多く、大学で学んだ知識がひとつ身につけてきたと実感することができました。

日本社会事業大学の一年目は障害福祉課に、現在は企画部企画課に配属され、組織管理や行政改革に取り組んでおり、今までと違う視点で清瀬市の福祉を考えるようになります。現場を離れたことで「相談員やワーカーだけが福祉の仕事ではない」と気づけたことを実習生にぜひ伝えたいと思います。



日本社会事業大学の一年目は障害福祉課に、現在は企画部企画課に配属され、組織管理や行政改革に取り組んでおり、今までと違う視点で清瀬市の福祉を考えるようになります。現場を離れたことで「相談員やワーカーだけが福祉の仕事ではない」と気づけたことを実習生にぜひ伝えたいと思います。

日本社会事業大学の一年目は障害福祉課に、現在は企画部企画課に配属され、組織管理や行政改革に取り組んでおり、今までと違う視点で清瀬市の福祉を考えるようになります。現場を離れたことで「相談員やワーカーだけが福祉の仕事ではない」と気づけたことを実習生にぜひ伝えたいと思います。

## 混声合唱団 菩提樹

ぼだいじゅ

### ●菩提樹って？

混声合唱団菩提樹では合唱曲はもちろんポップスや唱歌など様々なジャンルを分け隔てなく歌っています。主な活動としては6月の学内学会、11月の学祭での発表、12月の定期演奏会の開催があります。その他にも外部のお祭りや施設などに出向き演奏をさせていただいたりしています。合唱はただ単に音楽の一つの形ではなく表現方法の一つです。私たちの歌をきいて、そして何か感じてくれるものがあるのならばそんなに嬉しいことはありません。そんな聞いてくださる方の心に何かを残せるような合唱を目指し日々活動しています。



練習風景（日常的な）



現部員15名全員の写真です。

※(2) (2) (4)  
② ④(3)② ③②  
① ① ① ①  
一応学年をざっと書くとこんな感じです。※がついているのが代表の高嶋友佳梨です。



夏合宿（強化合宿で河口湖にいきました！三日間のハードな練習を終え笑顔でピース。



定期演奏会が近づいていよいよ講堂での練習がスタート！



指揮者の指揮に合わせ歌います。

### ●活動メモ（主な一年の流れ）

2012年

12月 第18回定期演奏会  
クリスマスコンサート  
(施設からの依頼)

2013年

2月 春合宿（追いコン含めた旅行）  
4月 入学式（毎年校歌の依頼があります）  
新入生歓迎会  
6月 学内学会発表&サークルセッション  
7月 学内葬  
8月 夏合宿（定期演奏会に向けての強化合宿）  
11月 学祭発表＆3サークル合同ステージ  
(菩提樹・マンドリン・てまり)  
ふれあい祭り出演  
12月 第19回定期演奏会

定期演奏会のお知らせ用の看板です。

混声合唱団菩提樹

第19回 定期演奏会

日時 平成25年12月7日(土)

会場 17:00～

開演 17:30～

会場 日本社会事業大学 講堂

入場料 無料



花は咲く、ディズニーメドレーなど歌う予定です。  
皆様に合唱のよさを少しでも感じて頂けるよう、日々練習に励んでおります。

ご来場を心よりお待ちしています。



定期演奏会のお知らせ用のはがきです。  
外部の施設や学校などに送ります。



二月には春合宿で箱根に行きました。  
(今年はまだなので写真は去年のもの)

### ●これからの活動

来年度の定期演奏会は20回目とちょうど節目の時期を迎える菩提樹。

今まで以上に仲間と一緒に高みをめざし聞いてくださる方々に音楽の楽しさや感動を届けられたらと思います。

## 2013年北海道同窓会秋季セミナーを開催しました。

去る2013年10月5日(金)、6日(土)に北海道同窓会秋季セミナーが小樽市にて、開催されました。

昨年2012年11月、村上会長の地元である帯広で開かれた北海道同窓会秋季セミナーの際、「来年の開催は、小樽」と決まりました。また当日、参加されていた伊藤同窓会顧問より、「せっかく遣るんだったら、社大も巻き込もうよ」という提案があり、結果、社大、同窓会、北海道支部の3者主催で「第1回社大市民公開セミナー」(後日、大橋会長によれば、「第1回は、1978年の沖縄」とのこと)を開催することとなりました。

その後、村上会長を中心に北海道素案を纏め、伊藤さんを中心とした同窓会とも協議を重ね、かつ、3度の現地実行委員会で練りに練り、「第1回社大市民公開セミナー&北海道同窓会秋季セミナー『地域社会福祉シンポジウム』を実施することとなつたのです。

### —先乗り・伊藤さんたち來道—

10月4日(金)、伊藤顧問、加藤総務部長、畠戸校友室補佐が新千歳空港に降り立ちました。この日は、3人に高田さん(学部15期卒)も加わり、札幌市内の3校の高校訪問を実施しました。また、伊藤さんの強い希望もあり、道同窓会初代会長・野村健さんの墓参りをすることもできました。

### —「地域社会福祉の近未来を共に語ろう」—

翌10月5日(土)、北海道らしい明るい青空の許、実行委員は続々と会場に集まって来ました。また、市内外の協力者たちも集まってくれ、簡単なミーティングのあと、大橋会長を中心に名刺交換なども行いました。

「市民公開セミナー・地域社会福祉シンポジウム」そのものは、小樽市の経済センター7階大ホールにおいて、13時30分より開始されました。

金子道同窓会事務局長(学部29期)の総合司会の許、村上道同窓会長(学部9期)のあいさつ、来賓の三浦小樽市福祉部長の祝辞があり、いよいよシンポが開催されました。シンポの司会は、地元小樽の口田さん(前出)です。

大橋元学長(学部7期)の基調講演を受けて、田原さん(道「こどもっくる」福祉専門員、子ども分野、学部31期)、伊藤さん(美瑛慈光会地域密着型事業部長、高齢分野)、木村さん(はるにれの里理事長、障害分野、学部9期)の3人が、自らの社会福祉実践を踏まえ、それぞれの社会福祉の地域づくりについて提言を行いました。

大橋会長の40分の基調講演「ニーズ対応型地域福祉の展開とコミュニティソーシャルワーク」は、地域福祉の概念から説き起こし、各地の実践例をふんだんに紹介しながら、ソーシャルワークの必要性と地域福祉の展望を語ったものとなりました。基礎編から実践編に至るまで、地域福祉の一連の流れが極めて明快に理解できるものとなっており、参加した市民からは、「大変良かった」、「もっと聴きたい」、「是非続編を」と絶賛される内容でした。

田原さんは、「子どもの発達を守るために「子ども」から「あらゆる人」への視点を持ってー」と題し、自らの経験と経験を通じて、まず子どもという存在を明らかにしました。その上で、大人や専門職がなすべきものは何か、を提言しました。

続いて、伊藤さんは、「誰もが住み慣れた地域で暮らし続けるために一人の人の支えることが、みんなを支えるー」と題し、遠軽社協の経験を踏まえ、現在、美瑛で実践している取り組みを紹介しました。この中で、人はそれぞれの生活課題を他者の力を借りながら解決し、地域で暮らしていくことが重要であることを強調しました。その上で、新しい事業所を立ち上げるためにには、地域住民がその主体者になる必要があり、事業所側はどう有効利用してもらうのかを考えるべき、と持論を展開しました。

最後に、木村さんの「当事者主体の当事者が造る福祉、市民が造る福祉」は、「民間社会福祉という最も厳しい現場」において歩んできたことを振り返りながら、ペアレンツメンター、当事者研究、PAIの3つについて、それぞれ取り組んでいる方のインタビューを通じて、地域で暮らすことの意義を解明してくれました。

これを受けて、会場に集まった160人以上の市民、社会福祉等関係者等から、小樽の実情を踏まえた様々なご意見をいただき、会場が一体となって論議を深めていきました。

1時間半程度の自由討論の中で、壇上の4人に加え、参加者の発言はのべ10人に及びました。最後に、シンポジストの4人が短時間で纏めを行い、盛り上がりが頂点に達した観があるにも拘わらず、終了時刻の17時を迎ってしまったのでした。

### —夜の懇親会で、論議の続きが・・・—

シンポ終了後は、専用車にて、朝里川温泉の老舗旅館「宏楽園」に行き、参加者はまずは温泉に入って、ゆったりとしました。

18時30分からは、社大関係者とセミナーの運営協力をしてくれた小樽市内外の方々、約50人の懇親会が開かれました。支配人のあいさつのあと、まずは、校歌を全員で唱和しました。

続いて、大橋同窓会長が、特にご協力いただいた方々に礼を述べ、伊藤さんの音頭で乾杯、となりました。

その後、参加された方々からごあいさつをいただき、宴の座は段々と和んでいきました。また、あちらこちらで名刺交換をする場面も見られ、小さな輪が徐々に拡がっていったのでした。

しかし、送りのバス出発時刻である21時となってしまい、懇親会は一旦お開きに。

引き続き、21時30分からは別会場にて二次会が開かれ、冒頭、過日亡くなられた板山賢治氏への献杯を行いました。懇親会で用意した酒がなくなってしまったとのことであり、おつまみも含めて、幹事が外に行く一幕もありました。ここでも、社会福祉の地域づくりについて熱い論議が交わされ、夜は更けていったのでした。



同窓会北海道支部「アガペ」10月30日発行第5号より抜粋

### 第2回松窓寮同窓会を開催

#### 国安さんを囲みOB・OGが集まる

2013年10月13日に大学生協の食堂で、寮生の同窓会を2年ぶりに行われました。今回も長年、寮生を支えてくれていた国安幸代さんの開催の要望に応じ、95年度生の深澤昌子さん・96年度生の遠矢充宏さんが中心に声をかけました。当日は、92年度生~05年度生と国安さんの寮母時代に合わせるような幅広い寮のOB・OGが集まり、当時の大学や寮での生活の様子を語り合い、また、子どもたちも自由に会場を走り回るような和やかな会となりました。今回の寮の同窓会では、現在の松窓寮を見学したいとの声が上がっていました。実現に向けて準備をしていきたいと思います。

佐竹 要平



### 大阪府支部

#### 同窓会が開催されました

11月9日(土)大阪府支部同窓会が大阪コロナホテル(新大阪)で行われました。お呼びした富山の吉田勇次郎さん(学部25期卒)、同窓会本部の伊藤博胤さんを含め総勢7名という小さな集まりだったが、懐かしく、楽しいひと時を過ごすことができた。

最初に大学学会賞である木田賞を受賞されているNPO福祉法人「愛和報恩会」理事長を務める吉田さんの講演が行われた。吉田さんは、富山県の八尾町(富山市)などで過疎化する地域の農業再生という課題と、障がい者支援という二つの課題への取り組みを進めている。具体的には耕作放棄地での稻作等による農業経営を行い、障がいをもつ人たちがその担い手となり、地域社会・農業の再生を図り、障がいをもつ人たちの誇りと生きがいにつなげていくことをめざし取り組みを進めている。農業経営と障がい者支援の両立の難しさなど困難な状況に直面しながらも、日々実践を積み重ねられている話を聞かせていただき、大きな刺激を受けた。

伊藤さんからは、大学の現況や同窓会の動向、先生方の近況などが報告された。

その後は、懐かしい話、現況の情報交換などで、大いに盛り上がった。

次の同窓会は、吉田さんの活躍する富山県の八尾に是非大阪府支部のメンバーで行かせていただこうということを確認し、終了した。

なお、報告者以外の出席者は、白江清支部長(学部12期卒)、白江真理子(学部14期卒)、佐野正樹(学部22期卒)、末永秀教(学部25期卒)であった(以上敬称略)。

西野伸一郎(学部22期生)

### 福岡支部講演会・懇親会

#### 佐賀・長崎・山口からも参加

福岡県支部は、2013年1月2日に、西南学院大学内の西南コミュニティセンターで、講演会を、ソラリア西鉄ホテルで懇親会を開催しました。

講演会は、「地域主権時代における自立生活支援とコミュニケーションワーク～アベノミクスと今後の社会福祉のゆくえ～」という演題で、社大大学院特任教授である大橋謙策先生にお話をいただきました。

講演会の参加者は、同窓生26人(含、佐賀県支部長、長崎県支部長、山口県より1人)、一般から10人の計36人でした。福岡市や北九州などの社協関係者や大学関係者などでした。また、社協の参加者から切実な課題に関する質問ができるなど有意義な時間を共有することができました。

懇親会には大橋先生をはじめ、総勢23人でした。佐賀県や長崎県の各支部長にも参加いただき、今後の九州での同窓会のありかたを考えるきっかけになったのではないかと思います。思い出や近況など話は尽きませんでした。また、大学への進学にあたって、社大の案内パンフレットを見て決めたという話がでるなど、社大に関する情報発信の重要性を感じたところです。お忙しい中、講演をいたいた大橋先生には、厚くお礼を申し上げます。

森 一郎



### 福島県支部

#### 総会・セミナーが無事終了しました

12月13日(金)、14日(土)に、福島県支部 総会・セミナーが、福島県郡山市(郡山ビューホテル)で開催されました。



13日(金)は、16時00分～「福島県支部総会」が開催されました。総会では、今後の活動計画等が話し合われ、総会後「意見交換会」が和やかに行われました。今回は、大学から潮谷理事長をはじめ古館学生支援部長等、同窓会本部からは、大橋同窓会長、松崎・竹田両副会長、また岩手県、秋田県、神奈川県、東京都支部からも参加があり、総会と意見交換会で、それぞれ30名近くの参加者数となりました。この日郡山は、初雪でした。

また翌日14日(土)には、「市民公開セミナー」が「東日本大震災の『今』～これから生き方と支援～」というテーマで開催され、宮城県、岩手県、秋田県、神奈川県、新潟県、東京都、大阪府、茨城県、福島県等の同窓会や他団体など約80名近くの参加があり盛況のうちに、無事終了しました。

### 滋賀県支部

#### 第5回目の会合・研修会を実施

11月16日(土)第5回目の滋賀県支部会合・研修会を開催。参加人員は10名で、滋賀県社会福祉事業団北岡賢剛理事長の「これから時代を拓く福祉」と題しての意義ある講演を受講しました。

講演では糸賀一雄の先進的な福祉実践から説き起こし、その業績のひとつの潮流であるアール・ブリュット(生の芸術)の発見・発展の歴史と現状について解説がありました。

また事業団の新たな取り組みとして、近年増加している障害者の犯罪防止に関する地域支援事業について、その困難な状況の打開の方向性が示されました。

その後、近江八幡にある事業団運営のアール・ブリュット関連専門美術館「ボーダレス・アートミュージアムNO-MA」にて実際に作品を見学鑑賞し、その驚異的なパフォーマンスに圧倒されました。



滋賀県支部長 川上雅司

### 長崎県支部

#### 総会・懇親会を開催

寒さが例年になく厳しい昨今ですがいかがお過ごしでしょうか。

さて、平成25年度日本社会事業大学同窓会長崎県支部総会及び懇親会を去る11月30日に諫早市にて開催いたしました。出席予定者9名のうち当日になり1名欠席となり8名の出席でした。

今回の総会にて、来年度より支部長が交代することが決定されました。新支部長は、学部25期卒の林一氏です。職場は、長崎県立開成学園副校長です。私は平成21年度より5年間長崎県支部長を引き受けきましたが、来年度より後進にお願いすることとなりました。

今後ともよろしくお願ひいたします。

長崎県支部長 平光 八郎



### 学部24期(80年度)同窓会

#### 3年に1回開催に40人が参加

1980年度生同窓会を11月23日に表参道のワイン食堂D.E.Nで開きました。同窓会は3年に1回、民生委員改選の年に開いており、今回で7回目。当日は同窓生40人が参加。来賓として京極高宣元学長、庄司洋子先生、伊藤博胤元学生部長、元交友室の数間丈夫さんにご出席頂きました。みんな50歳を越えたけど、同窓生名前bingoなどで大盛り上がり。久しぶりに会う友人の奮闘ぶりに更なる活力をもらいました。



# 板山さんをしのぶ

社大同窓会顧問・評議員・名誉博士 板山賢治氏(87歳)におかれましては、9月22日にご逝去されましたので、ここに謹んでお知らせいたします。

## 福祉・人生の大先輩

日社大評議員・同窓会顧問  
神田 均 (研7期)

昭和27年研究科在学中に初めて厚生省の板山先輩をお訪ねした時に、いただいたのは私が勤務した出身地役場で調査にも協力した、わが国で初めて実施された「国民生活実態調査」の資料でした。その後昭和56年の「国際障害者年」でも、先輩は国の事務局長、私は静岡県本部担当主幹として、共に汗を流したものです。又先輩が創刊の基礎を築かれた生活保護制度の専門誌「生活と福祉」でも、平成7年の半年間、水脈(随筆)欄で共に執筆をさせていただいた。更にその後日社大の法人・同窓会役員としても、常にご指導を受けて参りました。私にとっては終生忘却されない福祉と人生の大先輩でした。

板山さんは、「わが国の生保行政の草創期の実務、国際障害者年を契機とした障害者福祉政策の基礎づくり、更に日社大の原宿から清瀬への移転実務を担当された」パイオニア(開拓者)です。



大正15年8月8日～平成25年9月22日  
(1926年) (2013年)  
享年87歳

- 叙位 正五位 (平成25年10月)
- 叙勳 熊三等瑞宝章 (平成8年11月)
- 日本社会事業大学 名誉博士 (平成16年1月)
- 府中市市制50周年記念 「自治功労表彰」 (平成16年11月)

# 飯田さんをしのぶ

## 飯田精一先生逝去

10月8日(火)早朝。1927年3月生まれ満86歳でした。10年ほど前心臓冠動脈バイパス手術、3年余前から胃ろうの生活でした。

社大4年制発足時、養護学校教諭免許取得課程開設で、都立青鳥養護学校から迎え、障害児心理・教育・指導他を担当。

原宿キャンパス校舎脇に「いたる学園」(障害児通所施設開設)で奔走(現「こども学園」、成人施設は杉並区阿佐ヶ谷「いたるセンター」として運営されている)。

旅先でのスケッチが趣味であったとのこと。2枚を奥様からお借りした。古都の風景とアルコールが入るとよく口ずさんでおられた「カスバの女」をイメージされた“アルジェリア”?でしょうか。伊藤 博胤(同窓会顧問)



## 日本手話を入試に

**ソーシャルワーカー育成**

日本手話を入試に取り入れることによる、多文化共生社会の構築を目指す。日本手話を学ぶことで、多文化共生社会におけるコミュニケーション能力を高め、より豊かな社会貢献ができるようになる。日本手話を学ぶことで、多文化共生社会におけるコミュニケーション能力を高め、より豊かな社会貢献ができるようになる。

**日本社会事業大・来春から**

日本手話を学ぶことで、多文化共生社会におけるコミュニケーション能力を高め、より豊かな社会貢献ができるようになる。

**開催日** 2013年(平成25年)7月26日 金曜日

日本手話を入試科目に

## ルポルタージュ

福島県の医療ソーシャルワーカー第一号なさうですが、なぜこの道に? 日社大ではソーシャルワーカーになる教育を受けました。が、病院で働くと決めていたわけではなく、いくつか受けた就職試験の中で採用理由を「新しい地域医療を目指す病院として必要・・・」という説明が胸にひびいたからでした。日本は戦争に国家予算の大半を使うことから解放されて十余年の時、「これから医学医療の進歩は速く高度なものとなるだろうが、住民がかかるさまざまな問題が壁のなった。」とあると知った」と。人間の福祉を害なう五つの巨人の一つが、疾病であると学びましたので、患者の生活を整えるといふ役目は社会福祉の実践であります。その仕事はとても大変なこと、焦らずへこたれずに・・・との言葉をもらつて社会人となりました。その時、どれほど大変さなか等はあまり考えなかつたのですが。

会の中では不安定な生活を送りました。福祉サービスも整えられていきましたが、乳幼児、難病、交通事故、障害者、高齢者、生活習慣等々へと医療の発展は目ざましく、福祉サービスも整えられてゆきましたが、一般社

福島県の医療ソーシャルワーカー第一号なさうですが、なぜこの道に?

これまでの実践についてどんな思いがありますか?

小松智世美  
短期大学  
本科8期

らざるを得ない人々が増えることとなりました。ワーカーとして社会福祉の新しい知識・技量の習得にも追われ、医療と福祉の一體となつたサービスづくりやその評価測定、在宅ケアサービスへの取り組み等々に四苦八苦の連続でした。院内では、人の権利とか尊厳などという言葉づかいが誤解を受けたり、患者の言い分を取り上げ過ぎると言われ、ましてやソーシャルワーカーの自己決定の原理など受け入れられない職場での日常業務にかなり疲れています。二十年位経つた時、医療の世界にインフォームド・コンセント(説明と同意)という考え方・価値観が導入されました。それまで細々と訴えていたソーシャルワーカーの意義が医療者側からも認められ始め、私自身も改めて社会福祉の立派さに感動し、ここからが私のソーシャルワーカーとしての誇りをもつ本当のスタイルだつたと思います。

年老いた父の末期の看病を拒否する五人の子供達との面接で、いかに長い間幼かっただけともなりました。結核ばかりでなく他の感染症、乳幼児、難病、交通事故、障害者、高齢者、生活習慣等々へと医療の発展は目ざましく、福祉サービスも整えられていきましたが、一般社

会の中では不安定な生活を送りました。福祉サービスも整えられていきましたが、乳幼児、難病、交通事故、障害者、高齢者、生活習慣等々へと医療の発展は目ざましく、福祉サービスも整えられていきましたが、一般社

会の中では不安定な生活を送りました。福祉サービスも整えられていきましたが、乳幼児、難病、交通事故、障害者、高齢者、生活習慣等々へと医療の発展は目ざましく、福祉サービスも整えられていきましたが、一般社

会の中では不安定な生活を送りました。福祉サービスも整えられていきましたが、乳幼児、難病、交通事故、障害者、高齢者、生活習慣等々へと医療の発展は目ざましく、福祉サービスも整えられていきましたが、一般社

らざるを得ない人々が増えることとなりました。ワーカーとして社会福祉の新しい知識・技量の習得にも追われ、医療と福祉の一體となつたサービスづくりやその評価測定、在宅ケアサービスへの取り組み等々に四苦八苦の連続でした。院内では、人の権利とか尊厳などという言葉づかいが誤解を受けたり、患者の言い分を取り上げ過ぎると言われ、ましてやソーシャルワーカーの自己決定の原理など受け入れられない職場での日常業務にかなり疲れています。二十年位経つた時、医療の世界にインフォームド・コンセント(説明と同意)という考え方・価値観が導入されました。それまで細々と訴えていたソーシャルワーカーの意義が医療者側からも認められ始め、私自身も改めて社会福祉の立派さに感動し、ここからが私のソーシャルワーカーとしての誇りをもつ本当のスタイルだつたと思います。

ソーシャルワーカーは何をする人なのかを深く正しく熱く理解する人になること、なれば簡単なことで人間の権利と尊厳を守り失わせないといふ志があること、でしょうか。

## 同窓生へエールを



家族とラグビー観戦。  
我が家の正月の恒例行事です。

## プロフィール

こまつちよみ 福島県生まれ。1957年日本社会事業短期大学本科卒業。1959年財団法人太田総合病院にソーシャルワーカーとして入職。以来福島県の医療ソーシャルワーカーのパイオニアとして活動。

私は日社大で学ぶことをすすめてくれた故・谷昌恒先生を北海道家庭学校に訪ねた時、「一路至白頭」の碑を拝見しました。青年の心情は手によるように理解できました。保健所保健婦(当時)と連携協力し、主治医には家庭内の状況や地域社会の現状を具体的に知つてもらい、単に患者のみへの対応ではなく、地域全体への啓蒙活動へと歩をすすめるきっかけともなりました。結核ばく生きることを阻まれて苦しむ人はいます。いつの時代のソーシャルワーカーとして働く道を示し育て支えてくれた日社大に、心から感謝できる自分を幸せに思います。



母の日に。今は宮城筝曲(師範)と書道(毎日書道展入選など)を楽しんでいます。



悩み多き頃。右端です。五味先生には折に触れ励まして頂きました。

大事なことは?  
を重ねました。

ら頂いたお見舞い、お励ましに心より御礼を申し上げます。